

6月のライブラリーニュースをお届けします。

そろそろ梅雨入りしてくる頃ですね、雨が降ってしまうと自然と気分も落ち込んでしまいがちですが、そんな時こそ、本を読んでリラックスしてみませんか？



出版社 KADOKAWA

著者 望月くらげ

まめちしき

中学三年、付き合っていた男子・新から突然別れを告げられた少女、旭。思いを引きずり、高校生になった頃、新の母から突然、新の死を伝えられる。母から新の日記を受け取る旭。その日記を読んだ日の夜、時は三年前に戻っていて…読んでいて甘酸っぱくも重みを忘れられない、悲しいラブストーリー。「オチがわかっている恋愛小説ほど悲しい物はないだろ…」とってしまうのは私だけではないはず。そう、現実の新はすでに死んでいる。結末が変わることはない。それでも旭が三年前の新たに伝えたいこととは…そして、あなたならどんな言葉をかけるか？ぜひこの本を読んで考えて見てほしい。

傘は雨具じゃなかった！！？

実は傘の歴史は古く、古代エジプトの時代から使われていた道具であり、雨をしのぐ道具としてではなく日よけの道具や、権力の象徴として使われていたようです。



出版社 新潮社

著者 宮島未奈

「島崎、わたしはこの夏を西武に捧げようと思う」
2020年、中学2年生の成瀬あかりは幼馴染の島崎にそんなことを言い出した。

西武大津店に毎日通い、M-1に挑戦したかと思えば自身の髪で長期実験に取り組み、市民憲章は暗記して全うする……。

全力で我が道を行く成瀬あかり。

彼女を取り巻く人々が見た6つの姿を、ぜひ見てみませんか？

この本をなんと表現いたしましょうか...強いて言うなら、この本には女子たちの、はらわたをじっくりと煮込まれているような気持ち悪さを感じる、それでいて上品な嘘が内包されております。失礼。間違いです。嘘しかありません。この物語は、「白石いずみを誰が殺したのか」という議題に沿って、女子五人が互いに犯人捜しが行われるというものになっているのですが、その過程で起こる矛盾に嫌でもあなたは気付くでしょう。この場にいる女子全員が嘘吐きであることに...策謀、策謀。情に嘘。現実では怖くて、近寄りがたい...そんな危険な雰囲気も、本を通してみると、丁度いいあなたへのスパイスとなるかもしれません。ぜひ、この本を手に取り、何が嘘で、何が真実なのか。そして、加害者は誰なのか.....



出版社 双葉文庫

著者 秋吉 理香子

この記事のすべての本の表紙の掲載は、すべて各出版社の許可を得たうえで掲載しております。